

## ユネスコ未来遺産認定後初のとと道ツアー報告

2024.3.8「とと道」がユネスコの未来遺産に認定されました。このことあるを予測してか、倉敷ユネスコ協会が3.20に成羽吹屋ツアーを企画、18名の方が参加、私たち協議会メンバー4人はガイドとして参加、道中をご案内しました。これがはからずも認定後初めてのツアーとなりました。

前日に台風級の暴風雪が予報され、参加者に改めて悪天備えをお願いし成羽のたいこ丸プラザに8:50集合。皆さんしっかりした装備に身を固め、登山の経験は充分にありそうで安心。しかし、最初から雨というのはいささか落ち込むものです。9:05に出発。



9:05 成羽たいこ丸プラザ出発。  
ユネスコの登録証伝達式はこの伊藤記念ホールで開催の予定。



9:14 かつて一帯の物流の拠点となった成羽川を渡る



9:15 成羽川の船着き場を見学



9:31支流の島木川沿いに進むと対岸の山裾にぽっかりと開いた黒い穴が見える。古い銅山の入口だ。



9:35 木造アスファルト敷きという構造の島木橋を渡る



9:45 このコースには4つの山場があるが、その最初の山場、東枝の急坂が始る



早速路傍に早速様々な石像が現れる。  
とと道の南方で亡牛と刻字されていたがここでは牛馬となる。





9:56 小型の車なら通れる舗装道路のためゆるやかに見えるもののかなり急な登りが続く



9:59 東枝と呼ばれる村の中を登るこの道は東側の福地  
（しろちへの峠を越えてゆく。  
福地の成羽高校生が毎日往復した通学路だ。



峠の手前に「堂の下」と呼ばれる休み場の様な場所がある。かつて人の往来が多かった頃には駄菓子屋など7軒ほどの店が並んでいたという。



すぐ上には四つ堂ならぬ  
6本の柱に支えられた六  
堂がある。  
最近わずか6人ばかりの  
地元有志で改修したとの  
ことで屋根が真新しい。  
その上には地名の由来と  
なった古いお堂が見える。

雨は天気予報通りますます  
激しくなるが、一行の  
意気は軒昂だ。

さすがユネスコ！



峠への道は右上の杉林の中へ。とと道は左へカーブ。  
斜面全体が見事に草刈りされ、梅が満開だ。



10:08 窓坂までの登りの途中には成羽の市街を見下ろせる展望台が2ヶ所ある。ここは最初の展望台で、昨年(2023)春、成羽小学校の6年生一行が「学校が見える！」と万歳してはしゃいだ所だ。





出発点の美術館は山裾の左端の白いビル。  
小学校はその右の○の中のやや高い建物。



10:16 最初の急登が終わるとバスが待っている。  
1時間10分予定通り。





10:25 バス乗車はわずか5分。しかし雪は激しく、暖かいバスに乗れてほっとする。



10:29 舗装道路から林の中の山道に入る。  
8年前、この山の地主さんが藪を刈り払い、ユンボを運転して道を切り開き再開発した場所だ。



10:41 窓坂手前の第2の展望台に到着する。  
雪が激しく何も見えないがユネスコ未来遺産認定を祝って全員で万歳三唱。若い！



展望台の先の道脇に小さな堀があり、いつも水がたまっている。  
東城からの重荷を負って往来する牛馬の為の水飲み場だ。



地主さんはその後協議会の役員になり、窓坂の手前に吹屋音頭とも言える歌詞の入った手造りの看板ををいくつも立ててくれた。どなたか節を付けてくれませんか？ 山の中で歌ってみたい！



10:55 そしてほどなく窓坂。何度も通った場所だが雪の窓坂は初めて。魚仲仕は冬も魚を運んだのだろうか？ふと同行二人の思いにかられる。



窓坂の先の切り通しを抜けると稜線上の平坦な山道となる。昨年の視察の折、先生方が「いい道だねえ！」とご満悦で歩かれた。明治初期、狼が馬と人を襲い、その狼を成羽の人が成敗したとの場所だ。



11:00 下りになると舗装道路が見える。バスが待っている。





11:10バスを降りると早速森の中に入りこのコース第2の山場となる。急坂は無くゆったりと自然を楽しむ。



11:20高圧線の下にはとと道と交叉して巡回の細道が延々と続き、周辺の樹木は切り払われて空が広がる。



11:23 森の中では秋冬の大風で枯木がとと道に倒れかかる。  
毎年この倒木の撤去が一仕事だ。



11:29 森の中には縦横に踏み跡がつけられている。  
この二股では左の道をとるとうまく後谷へ出られる。



11:34 二股の少し先に本来の下りのとと道が有った。  
ところが後谷手前の杉林の伐採により道は無数の倒木で  
埋め尽くされ現在は通れない。  
そこで、西へ西へと迂回路をたどる。



この迂回路は宇治から高梁へ出る東西に続く松山道だ。  
途中古い祠があり、旅人を励ます様な雰囲気がある。



11:45山腹に丁寧につけられた道を辿り、最後に小さな坂を下ると後ろ谷へと続く舗装道路に出る。



山道の出口左側の道標には「左松山三リ半」と刻字されている。





11:49 舗装の道を下ると突然後谷の景観が広がる。  
雪の日にはいかにも厳しい里山の暮らしと見える。



下りながら振り返ると高い石垣の上に巨大な城の様な家が見える。この地で一体どんな財を成したのだろうか？



ここは後谷でも最も奥の棚田。水田を整備し、水を張って田植えの準備をしていたところ季節外れの雪が降った。



本来とと道は赤丸の中の道を下ってくる筈だった。左手の家のお婆さんが昔はあそこを宇治の百貨店に行く人が沢山歩いとったよと教えてくれた



11:55 下りきって地神の石碑の前から後谷を見晴かす。  
人はかつてこうして原野を切り拓いて暮らしを紡いだ  
んだと納得できる眺めだ。



水田の向うの集落。法面が見事に草刈りされている。



氷雨の中を黙々と宇治へと向かう。



12:01 このコースの第2の山場を終えて後谷を振り返る。





後谷から県道へ出るすぐ手前に密生した杉林がある。  
そこに激しい吹雪。この林の中で昔話を聞きたくなる。



12:04

県道への出口角には沢山の薪をきっちりと積上げた倉庫。



かつてのとと道は県道のやや上の山裾を通っていた。  
そこに協議会の役員のお爺さんの名前が刻まれた牛馬  
供養碑(三面観音像)。右成羽、左たい(田井)とある。



12:59この役員さんが地元の有志と運営している「café麦」で昼食。月曜日だけオープンのところ水曜日の今日、開けていただいた。そこでまたまた万歳！



普段であればここから第3の山場が始るがコースは田んぼの中を進んだり、島木川を渡ったりと複雑になる。雪は一向にやまない。そこで今回はそうした複雑な行動を割愛、笹尾城跡下の橋までバスで進み、そこから歩くことにした。五輪塔のあるしらげが城が雪に煙っている。  
この城が敵襲を受けた折一年にも渡って籠城を続け、最後になって残った米の半分を握り飯にして城兵一同城壁の上でこれ見よがしに食べ、残る半分の島木川に惜しげも無く流した。これを見た寄せ手は兵糧攻めを諦め包囲を解き兵を引き揚げたとか。





13:26 形の良い森に囲まれた笹尾城跡が姿を見せた。



島木川の対岸には穴田を本拠とし一帯を支配していた赤木氏(1221年に地頭として入部)の滝谷城が有る筈だがどの山だかよく分からない。





13:30 一帯には顕著な山城址が4つある。その内3城は現地に本拠を置く赤木氏の関係だが、この笹尾城だけは美星からやって来た三村氏についていた。そのせいか孤高の雰囲気強い。



雪は益々強くなり、あたりは山水画状態。ユネスコ認定  
記念ウォークがこんな日に当たるのは天の采配か？





13:34 笹尾城址には無数の古い五輪塔が集められている。鉄砲が使われるようになり農兵が増え、小さな五輪塔がその墓として作られるようになったとの話が哀しい。



とと道は町中ではなく主に山中を通る。このため時としてトイレが遠い。そこで会長自らバードウォッチングに活用してきた簡易トイレを笹尾城跡の西側に設置していただいた。これでもしもの場合も一安心。

とと道は町中ではなく主に山中を通る。このため時としてトイレが遠い。そこで会長自らバードウォッチングに活用してきた簡易トイレを笹尾城跡の西側に設置していただいた。これでもしもの場合も一安心。



待機バス

笹尾城跡の西峠で第3の山場は終わり、ここから直ちに第4の山場＝最後の登りが始まる。登り始めればエスケープルートは下りだけ。朝からの登りで誰もが知らずにかかなり疲れている。そこで、ここではバス（赤丸印）に乗るかどうかの自己判断をさせていただいている。



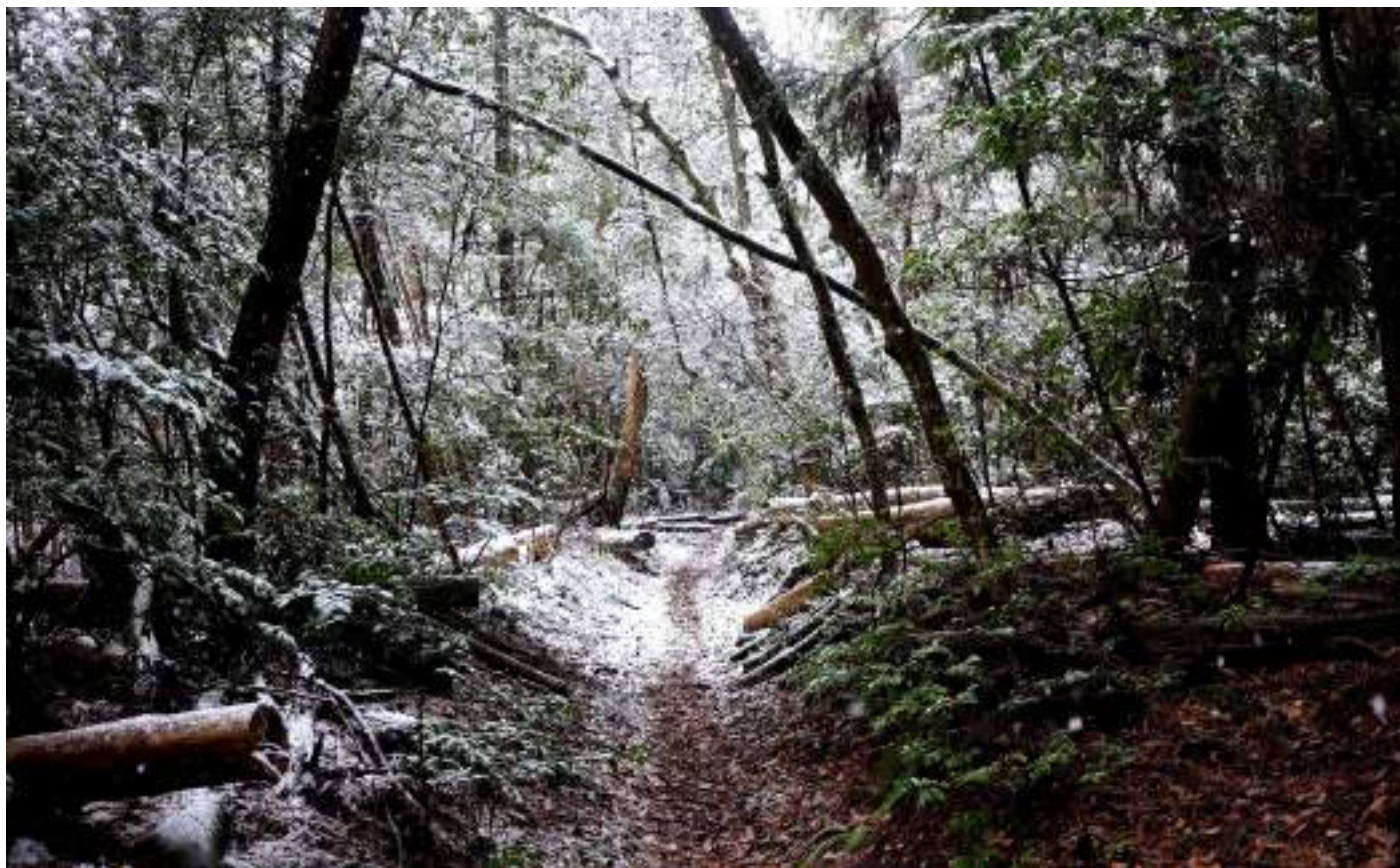


今回もここでお1人、既に先に乗られていたお2人、併せて3人が並走バスに乗られた。  
お見送りがてら下の村の雪景色を楽しませていただいた。





13:50 伴走バスは3人を乗せて吹屋に先行する。



14:03 本隊は最後の急坂に挑む。倒木が多い。



雪のおかげで道は華やかな装飾に包まれる。



黙々と上下を繰り返す。



14:31 頭上の林が途切れ、坂が終わり平地に飛び出す。  
途端に一面の銀世界。延命寺の山門が見える。



こんな所にも水を張った水田があり、オタマジャクシが黒い塊になってあちこちでじっとしている。春はどこへ？





14:33 延命寺の凜とした雪景色。吉備高原最奥の地の禅寺。





雪の延命寺に参拝。まるで暮れの永平寺みたい。



14:40 迎えに登ってきた二葉の専務さんによれば途中ここまで登るのを諦めて下った乗用車が有ったとのこと。ニコニコ顔の専務さんだが、よくぞ無事に登ってきてくれました。



全員バスに乗り下谷に下り、待ち受けていた協議会メンバー戸田さんにガイドをお願いします。今日はこの冬一番の雪だとか。





14:50 下谷から本当に最後の登り大塚坂では竹が雪の重みで道に倒れかかってきている。



15:00 3月も20日だと言うのに吹屋は雪景色。



15:10とと道の最終ゴール、紺碧の青空が広がる山神社。

雨降りの朝のいささか惨めな思いは吹き飛んだ。  
又々万歳！

